



高萩市民間交通指導員委嘱状交付式

市長が委嘱した18人の民間交通指導員。警察や学校などと連携して、道路交通の安全指導や登校時の立哨を行い、交通事故の防止に努めています。

交通事故のない 安全・安心なまちに

朝

の空気がすがすがしい中、交差点に立つ民間交通指導員や民生委員、立哨当番の保護者。子どもたちとあいさつを交わしながら、安全に登校できるように見守ります。

毎月1日・10日・20日は、各地区で民間交通指導員が立哨指導を実施。制服姿は、ドライバーへの安全運転の意識啓発にもつながります。

事故が多い登下校中

警察庁の調査では、小学生の歩行中の事故は、約4割が登下校の時間帯に起きています。

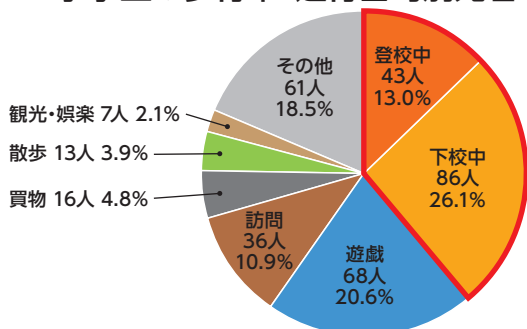
事故に巻き込まれないように、あるいは、事故を起こさないように交通ルールやマナーを守ることが大切です。

「自分は大丈夫」と思わずに、前をよく見て安全確認し、交通事故のないまちにしていきましょう。

小学生の歩行中・通行目的別死者・重傷者数

【令和4年】警察庁

計330人



登下校中が約4割



東小学校の校門前であいさつ運動を行う民生委員。元気なあいさつで、気持ち良く1日をスタート。

自転車とヘルメットはワンセット

ヘルメットはワンセット

ヘルメット着用が努力義務に

今年4月から自転車に乗る時は、運転する人も同乗する人もヘルメットをかぶることが努力義務として求められるようになりました。努力義務なので、罰則はありませんが、ヘルメットが命を守るのに有効であることが明らかになっています。

命を守る安全装置

警察庁の調査では、自転車事故で死亡した人の約6割が、頭部に致命傷を負っています。

そのうち9割以上がヘルメットをかぶっていませんでした。

また、ヘルメットの着用状況による致死率は、非着用の際は着用時より

約2.6倍も高くなっています。

ヘルメットは命を守る安全装置。非着用は、死亡や重症など重大な事故に直結します。

自転車に乗る時は、自転車とヘルメットはワンセットであることを忘れないようにしましょう。



高萩市内の自転車に関する人身事故発生件数は、令和4年が4件。今年はずゼロ件（6月末時点）ですので、これからも交通ルールを守り、ヘルメットを着用して安全運転を心がけましょう。



高萩警察署 交通課長 鈴木 裕次さん

安全性あるヘルメットを

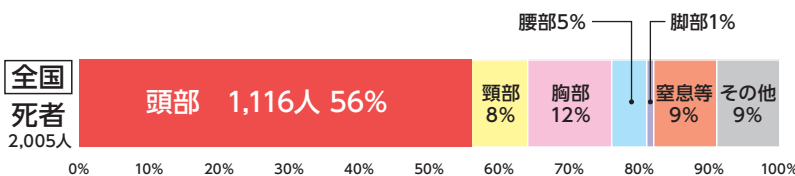
SGマークなどの安全性を示すマーク*の付いたものを使い、自分にあったサイズを選びましょう。

※ 安全性を示すマーク

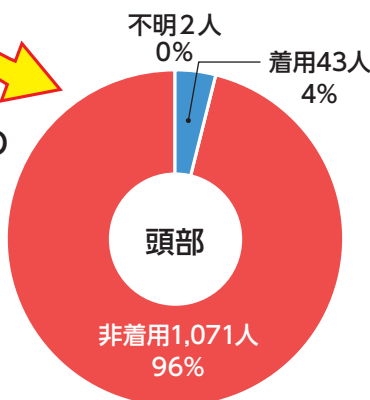
- SGマーク（一般財団法人製品安全協会 日本）
- JCF公認マーク・JCF推奨マーク（日本自転車競技連盟 日本）
- JISマーク（日本産業標準調査会 日本）
- CEマーク（欧州標準化委員会 EU加盟国等） 他

自転車乗用中死者の損傷部位構成率

【平成30年～令和4年】警察庁

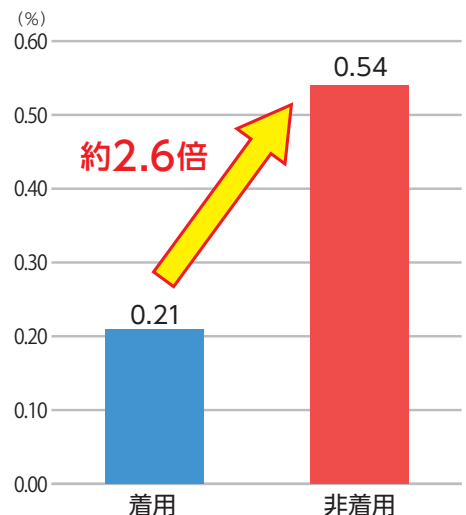


ヘルメットの着用状況



ヘルメット着用状況別の致死率*比較

【令和4年】警察庁



*致死率とは、死傷者のうち死者の占める割合のこと。